

第2節 篠栗・筑豊線電化複線化計画

1. 現状と計画の概要

篠栗・筑豊線電化複線化計画は、図3-2-6のように篠栗線と筑豊本線の吉塚 - 直方間を電化し、篠栗線の吉塚 - 篠栗間を複線化するというものである。篠栗線と筑豊本線は、福岡都市圏とかつての産炭地であった筑豊地城を結ぶ路線で利用客もかなり多い。しかし、筑豊本線の一部（飯塚 - 直方）はかつて炭坑が栄えた頃の名残で複線化されているものの、そのほかの区間は単線であり、さらに全線非電化となっている。現在この区間には高性能の気動車が導入され、博多 - 飯塚間を最速36分で結んでおり高速化が進んでいるが、産炭地域振興には交通網の整備が必要であるとして電化複線化を求める声が強かった。それを受けて、輸送力の増強による旧産炭地の地域振興や福岡大都市圏構想実現などを目的として電化複線化計画が進められた。

そしてこの計画を推進するために、1993（平成5）年2月、第三セクター「福岡筑豊都市鉄道開発株式会社」が設立された。この会社には福岡県と沿線の3市6町、JR九州、麻生セメントなど民間企業28社が約10億円を出資し、鉄道整備基金からの無利子融資や産炭地振興関連資金などを財源として電化複線化工事を行い、完成後は施設をJR九州にリースするという計画であった。総工費は175億円を見込み、平成9年度末に吉塚 - 篠栗間の複線化、平成11年度末に電化工事完成を目指して計画が進められた。



図3-2-6 電化複線化計画の概要（朝日新聞1993年12月3日付より転載）

2. 計画の挫折

このように、第三セクターが設立され計画は順調に進むかと思われたが、あっけなく挫折することとなった。第三セクターが設立された同じ年の9月、福岡県は第三セクターが建設を行いJR九州へリースするという計画を全面的に見直し、JR九州を事業主体とする事業計画に変更する方針が報道された。

その大きな原因は財政難によるものであった。当初の計画では、鉄道整備基金からの無利子融資や産炭地域振興基金などの国の援助策を活用して建設費の財源に当てるとしていた。しかし、事業費の約40%を見込み、財源の柱とされていた鉄道整備基金の無利子融資については、福岡県内のほかの鉄道整備計画（福岡市営地下鉄3号線、JR筑肥線）に比べて、地域浮揚の決め手との期待があるものの、大量輸送などの輸送効率面から劣勢に立たされており、融資適用の見通しが厳しい状態にあった。さらに、産炭地域振興基金の鉄道事業への出資についても前例が無いとして難航していた。また、沿線自治体の出資も、地方財政法の関連で事業費の40%の無利子融資、または20%までの補助金と限定されており、財源不足が必至の情勢となったのであった。

このような情勢の中で、同年12月の福岡県議会産炭地域振興対策調査特別委員会において、県側は見通しが甘かったことを陳謝した上で、当初方針を変更してJR九州を事業主体に据える方針を表明し、事実上計画は振り出しに戻る形となった。そして、翌1994（平成6）年1月には第三セクター会社の事業を沿線開発などに専念させる方針を固めて、事実上鉄道整備事業を断念した。一方JR側も、この方針変更が台風や集中豪雨による多額の災害復旧費用がかかった直後であったことや、もともと経営基盤が弱いことなどから、過度の負担を強いられれば受け入れられないとの慎重な態度をとっており、現在に至るまで事業の実現見通しの立たない状態が続いている。

見で、国も協力してくれるとの感触を得ていると明るい見通しを示していた。さらに、6月の県議会本会議においても計画は順調であると述べていた。このような発言の背景には、国と交渉を行ってきた際に、国会議員のバックアップという政治的な援助を受けていたことに対する安心感があったといえる。というのも、第三セクター方式に踏み切った理由として県側は、JR九州篠栗線電化複線化促進国会議員連盟の麻生太郎会長から「積極的に対応すると約束が得られた」との言葉があったためと、先述の県議会特別委員会の席上で明らかにしているのである。さらに県側は、鉄道整備基金の無利子融資は感染が優先され、篠栗・筑豊線には回してもらえないとも述べているが、これは無利子融資の現状を正確に把握していれば、あらかじめわかっていたことであり、このような点からも政治力に期待していた面が浮き上がってくる。

しかし、この年の7月の総選挙の結果、政権交代が行われたことによってそのような政治的な力が弱まったことは否めず、結果としてこの計画は挫折するに至った

このように、計画が挫折した大きな原因は、財源の見通しをはっきりさせずに政治力に期待していた点にあるのではないだろうか。しかし、言い換えるとこの事例は鉄道整備のような大きなプロジェクトにおいて、政治力が以下に大きなウェイトを占めているかを如実に表しているといえる。